

摘発報告③

乗組員による覚せい剤
密輸入事件

函館税関八戸税関支署

秋風が吹き始めた昨年10月上旬、八戸税関支署は八戸海上保安部及び八戸警察署と合同で、八戸港に入港した中国籍外国貿易船「J号」に対する船内検査を実施し、同船舶の機関室内から、東北地方の開港では初めての覚せい剤約2kg（末端価格約1億2千万円）を発見・摘発し、その後、八戸警察署との共同調査・捜査により中国人乗組員1名を逮捕するとともに、中国人密航者7名を発見した。

○序章

当支署では、「J号」が入港するとの情報を得た時点で、同号の最近における日本への入港頻度、外国の寄港地及び全国での覚せい剤摘発事例等から、不正薬物を密輸入する危険が極めて高い船舶であると分析し、関係機関である八戸海上保安部と合同船内検査体制を組むこととなった。

○検査開始

快晴の土曜日の朝、「J号」接岸と同時に、税関職員及び海上保安部職員は本船に乗船した。今回の本船仕出国である中国からは、全国で密航摘発事件が多発していたことから、最初に船員手帳と船員本人とを対差確認し、その後それぞれの船員居室から検査を開始した。



○覚せい剤発見

各居室及び共用倉庫等の検査の後、甲板部及び機関部の検査へと移行した。

機関部検査開始まもなく、

無線に「氷砂糖状の覚せい剤らしきもの1袋を発見」との連絡が入った。発見した場所は機関

室消火用砂箱内。その砂箱の砂の中に隠匿されていたものであった。物件隠匿者の身柄確保のために船員を集め、事情聴取をしていたところ、同船船員1名が上陸許可書不所持のまま本船から脱船逃亡していることが判明、八戸警察署に逃亡した船員の発見及び身柄確保を依頼することとした。

○身柄確保

脱船逃亡した船員は本船から飛び降りた際に足に怪我をし、救急車で病院に搬送中のところを警察に身柄確保された。身柄を確保された脱船逃亡船員の職種は機関員であった。

○密航者発見

更なる不正薬物等の隠匿が疑われたことから、函館・青森からの職員の応援を得て、税関・海保・警察総勢約40名の体制で合同船内捜索を実施した。長時間に及ぶ捜索を行ったが、不正薬物等の発見には至らなかったものの乗組員3名のそれぞれの居室天井裏に潜んでいた中国人密航者7名を発見した。また岸壁を徘徊していた中国人1名を職務質問・取調べたところ、密航者を引き取りに来たことを供述し、更なる取調べの結果、所持していた外国人登録証は偽造であることが判明した。

○捜査

その後、税関・海上保安部・警察との三機関で合同捜査本部を設置して捜査した結果、脱船逃亡した機関員を覚せい剤密輸犯として逮捕し、青森地方検察庁八戸支部へ告発した。

また密航事件関連者として、密航者7名、帮助船員3名、国内関連者3名に判決が下されている。

○終わりに

今回摘発した覚せい剤約2kgは、末端価格で約1億2千万円、使用回数で約6万7千回分という膨大な量であり、国内への不正薬物の拡散が懸念される現状を見れば、水際で阻止できたことは大きな成果である。

また不正薬物の密輸が地方港へ拡散していることの実態、及び麻薬密輸と密航が密接な関係にあることをあらためて知らされた事件であった。

